

1 資格の趣旨

「社会調査士」は、世論や市場動向・社会事象等をとらえる調査能力をもつ人に対して「一般社団法人 社会調査協会」が認定する資格である。社会の実態を把握するための調査について専門的な知識と実施の技能があることを証明するもので、卒業後の進路において調査や分析、企画職・マーケティング職などに就く上で有利になることが期待されている。国内の多くの大学、さまざまな学部や学科において導入されているが、本学部においてもこの資格の対応科目が設置されている。

資格は大学卒業時に資格対応科目の単位をすべて修得していれば申請できるが、それまでに一定の単位を修得することで「キャンディデイト」資格を在学中に申請することもでき、就職活動に際してアピールすることが可能である。資格についての詳細は、社会調査協会のホームページ (<http://jasr.or.jp/>) を参照すること。

2 資格取得の申請方法・場所

資格取得のための試験等は特になく、大学卒業までに資格対応科目のすべてを修得すること、学部を卒業することで資格取得が可能になる。資格申請にあたっては、指定科目の単位修得を証明する書類と、審査・認定手数料を一定の期間内に揃えることが必要である。在学中の「キャンディデイト」資格についても同様であるが、卒業時に「キャンディデイト」資格から正規の社会調査士資格への変更申請をする必要がある。

資格取得の申請や相談については、池袋キャンパス8号館にある「社会情報教育研究センター (<http://csi.rikkyo.ac.jp/>)」で受け付けている。なお、立教大学の学生は「キャンディデイト」資格の申請手数料に関して、一般の大学に比べて減額を受けられる。(今年度の申請期間や具体的な手順などについての詳細は、正式決定後に学部掲示板に掲示する。)

3 資格取得に必要な科目

1. カテゴリー

資格取得のためには資格に対応した科目の単位をすべて修得することが必須である。本学部では社会調査協会が設定したカテゴリーA～Gに対応する開講科目がある。

資格取得自体は、学部指定の科目の代わりに、同カテゴリーに指定されている他学部・全学共通科目を、学部で修得した他のカテゴリーの科目と組み合わせて申請することも可能だが、卒業に必要な学部の単位と混同しないように注意が必要である。

社会調査協会が定めるカテゴリー	
A	社会調査の基本的事項に関する科目
B	調査設計と実施方法に関する科目
C	基本的な資料とデータの分析に関する科目
D	社会調査に必要な統計学に関する科目
E	多変量解析の方法に関する科目
F	質的な調査と分析の方法に関する科目
G	社会調査を実際に経験し学習する科目

2. 対応科目

(1) 社会学科

	本学開講科目	登録方法
A	社会調査法1	自動登録
B	社会調査法2	
C	社会調査法3	
D	社会統計学	科目コード登録
E	多変量解析	抽選登録
F	質的調査法	科目コード登録
G	社会調査演習	抽選登録

注) カテゴリーE・Fについてはいずれか1科目の単位を修得すればよい。

(2) 現代文化学科

	本学開講科目	登録方法
A	社会調査法1	自動登録
B	社会調査法2	
C	社会調査法3	
D	社会統計学	科目コード登録
E	多変量解析	抽選登録
F	質的調査法	科目コード登録
G	社会調査演習 専門演習2	抽選登録 その他登録

注) カテゴリーE・Fについてはいずれか1科目の単位を修得すればよい。

カテゴリーGについてはどちらか1科目の単位を修得すればよい。

*「専門演習2」については、一部のクラスのみG科目に対応しているので、
掲示等に注意すること。

(3) メディア社会学科

	本学開講科目	登録方法
A	社会調査法1	自動登録
B	社会調査法2	
C	社会調査法3	
D	社会統計学 世論調査論	科目コード登録
E	多変量解析	抽選登録
F	質的調査法	科目コード登録
G	社会調査演習 専門演習2(2017~)	抽選登録 その他登録

注) カテゴリーE・Fについてはいずれか1科目の単位を修得すればよい。

カテゴリーGについてはどちらか1科目の単位を修得すればよい。

*「専門演習2」については、一部のクラスのみG科目に対応しているので、
掲示等に注意すること。